



乙島っ子

令和5年度 NO. 14

令和5年 7月18日 倉敷市立乙島小学校

1学期も、ご理解・ご協力、ありがとうございました！

まったく、早くも、1学期も終わりを迎えます。例年通り、「四つの子ども像」を目指し、学校を挙げ、取り組んでまいりましたが、不十分なこともあり、2学期の大きな課題です。今号は、筆者の視点から振り返ります。

うれしかったことは…

4年い組の理科支援で関わらせてもらっています。先日、「電流のはたらき」の授業で、学習内容について実感を伴う理解を図る「ものづくり」で、モーターカーの制作の際、自分のもでき、友達の支援も行ったある児童が、「先生のも作ってあげようか…?」ともちかけてきてくれました。名前まで付けてくれたその車は、まさに宝です。



授業支援では、特に、「学び合い」を呼びかけています。ノートを取るのが困難な児童には、自分のものを取った児童が席の離れているお友達の席まで寄って支援を行っていました。実は、教えている児童も、他者に説明することで、「学び直し」を行っているのです。筆者も、自分が関わった授業の「呼び起こし」を行い、配信しています。

「思い」を、互いに、認め合える児童に…

四つの「めざす子ども像」の中でも、本校OBのある保護者の方は、「にこにこ あいさつ」が一番重要であると力説されます。筆者も100パーセント同感です。本質は、「『思い』を交流する大切さ」。先日、児童会でも、「あいさつ八つのレベル」に、「全校を挙げて」、「毎月第1週に」取り組もうと、「あいさつ」に特化した「グッドビヘイビアカード」を校内で渡し合い称え合う「グッポス」の取組が呼びかけられ、行われ、今後も継続されます。



「自己指導能力」を発揮する、育てる

19日の終業式では、児童に、例年通り、「夏休みは、『自分』が、自分の先生である」と伝えたいと考えています。実は、学期後半には、生徒指導上の問題が少なからずありました。「スマホ、ケータイのトラブル」「言葉づかい、お金の使い方の拙さが友達の心を害したトラブル」「下校時、道行く車、近所の家などにご迷惑をおかけしたトラブル」…。これらトラブルには、ご家庭でのご指導の主体性と学校の指導との連携が必要です。学校では、行為の是非を唱えるだけでなく、「なぜ、いけないのか」の理由も考えさせる指導を行っています。年度初めには、「自己指導能力」もお示しました。「考え、判断し、実践できる」子どもを目指しましょう。

自己指導能力

選択や決定のときによく考えること	不本意な結果であっても真摯に受け止めること
自らの選択や決定に従って努力すること	周囲への影響や反応を考慮すること